

# 電磁応用

第46号 1997年4月

## 平成8年度第1回理事評議員会

去る平成8年8月20日、新宿ホテルハイヤットに於いて理事評議員会が開催された。資金の信託利息の大幅な低下が当所の運営を圧迫しており、色々の対策を引き続き実施することが討議された。

又、永年当所に貢献された平山理事の後任として、理事には大附辰夫氏を、評議員には村山好久氏を選出した。村山好久氏は昭和25年早大卒業、NTTの要職を歴任後、昭和50年松田製作所(株)社長、昭和63年通信機器工業組合理事として今日に至られた。

平成7年度事業成果報告 平成7年度決算報告 平成8年度事業経過報告

## 1995(平成7)年度研究発表論文

理事 大附 辰夫

- [1] 「SFL/Parthenon によるVLSI設計」・電子情報通信学会総合大会論文集, pp.401-402, 1995年3月
- [2] "Maple-opt:A Simultaneous Technology Mapping, Placement, and Global Routing Algorithm for FPGAs with Performance Optimization", 理工総研 Technical Report, No.95-14, 1995年3月.
- [3] "A Hierarchical Circuit Partitioning Algorithm for Multi-FPGA Systems", 理工総研 Technical Report, No.95-18, 1995年4月.
- [4] 「Maple-opt:パス遅延制約を考慮したFPGA用テクノロジーマッピング・配置・概略配線同時処理手法」, 電子情報通信学会軽井沢ワークショップ論文集, pp.97-102, 1995年4月,
- [5] 「マルチFPGAを対象とした階層的回路分割手法」, 電子情報通信学会回路とシステム研究会, Vol.CAS95-40, VLD95-40, pp.69-76 1995年6月

- [6] 「I/Oピン数最小化を目的とした回路分割手法」, 第3回FPGA/PLD Design Conference, pp.269-287, 1995年7月.
- [7] "A CAM Based Parallel Fault Simulation Algorithm with Minimal Storage Size". Proc. of SASIMI'95, pp.136-143, 1995年8月.
- [8] "Maple-opt:A Simultaneous Technology Mapping, Placement, and Global Routing Algorithm for FPGAs with Performance Optimization", Proc. ASP-DAC '95, pp.319-327, 1995年8,9月
- [9] 「動作記述からのデータフローグラフ生成手法」, 電子情報通信学会VLSI設計技術研究会, Vol.VLD95-96, pp.55-62, 1995年10月.
- [10] 「リソースアロケーションを考慮したデータパス・スケジューリング手法」 電子情報通信学会VLSI設計技術研究会, Vol.VLD95-97, pp.63-70, 1995年10月
- [11] 「パイプライン化DSPのデータパス・スケジューリング手法～動作記述からSFL記述の自動合成～」, 第7回パルテノン研究会, PP.64-71, 1995年11月.
- [12] "A Circuit Partitioning Algorithm with Replication Capability for Multi-FPGA Systems". 電子情報通信学会英文論文誌. Vol.E78-A, No.12, pp.1765-76, 1995年12月.
- [13] "A CAM-Based Parallel Fault Simulation Algorithm with Minimal Storage Size", 電子情報通信学会英文論文誌, Vol.E78-A, No.12 pp.1755-64, 1995年12月.
- [14] 「エントロピーCODECの高位合成手法」, 情報処理学会設計自動化研究会, Vol.96, No.16, pp.25-30, 1996年2月.
- [15] 「条件分岐構造を持つコントロールデータフローグラフの時間制約スケジューリング手法」, 電子情報通信学会VLSI設計技術研究会, Vol.95, No.561, pp.31-36, 1996年3月.
- [16] 「イタレーション間データ依存制約を考慮したパイプライン化DSPスケジューリング手法」, 電子情報通信学会VLSI設計技術研究会, Vol.95, No.561, pp.37-44, 1996年3月
- [17] "A Simultaneous Technology Mapping, Placement, and Global Routing Algorithm for FPGAs with Path Delay Constraints", 電子情報通信学会英文論文誌, Vol.E79-A, No.3, 1996年3月.

第113回電気通信技術懇談会(8-8-23)  
 —— 東南アジアへの国際協力の問題点 ——

BHN支援協議会ではミャンマー、ベトナム、バングラディッシュ等を訪問して様々な調査を行ったが、大要次の通りである。

ミャンマーは政治情勢が次第に安定しており、1988年以来市場の開放、自由主義経済体制の導入により、海外からの投資は急増しているが、ODAをストップしている日本の立場は弱体化しつつある。又、世界的に有名なスーチーさんの影は薄れつつある。日本の報道はかなり偏っている為誤解があるようだ。現地ではスーチーさんの発言は原則論に固執して、具体的な提案がないと云われている。

ミャンマーは135もの多民族国家であり、民族紛争の防止に大きい努力が必要であり、ゆっくりと進めることが大切である。暫く前までは閉鎖的な社会主義政策であったが、自由化以来日本に代わって仏、英、韓国などが大きく進出して来ている。ミャンマー側では日本が早く戻って来ることを期待しているようである。

ベトナムは橋本総理の訪問を機会に、人材育成、交流を積極化する動きがあり、電気通信の幹部育成等も強く望まれている。

バングラディッシュは電気通信の未開国であり、電話は殆ど使いものにならない現状である。日本の協力隊は70人位滞在しているが、日本と連絡が殆ど取れない為、せめて衛星通信が出来るようにして欲しいとの要望があった。

#### 第114回電気通信技術懇談会(8-10-24)

##### —— OCNの構築について ——

平成8年2月にOCNサービスが発表されたがその内容、経緯についてスピーチを伺った。オープンコンピュータネットワークは低速系128kb/s、高速系1.5Mb/s、6Mb/s、ダイヤルアップ接続加入電話ISDNがサービス提供される。128kb/sの低速系は藤沢、大垣で先行開始され、ISDNからのサービスはアクセスポイントを東京におく事となる。低速系はその後札幌、仙台、浦和、千葉等11都市でサービス開始となる。そして引き続き県庁所在地へ拡大する。97年100都市98年200都市となる。高速系は97年度より15都市程度のマルチメディア実験都市から始める。

中規模事業所のユーザでは128KのOCNサービスの利用があり、電子メールを主としたコンピュータネットワークの初歩的な利用、LAN内のトラフィックが多いイントラの場合等である。

大規模のユーザの時は1.5MのOCN利用となる。事業所のイントラネット、インターネットの本格利用、社内の企業情報システムへの対応、又高速アクセスでの各種サーバーデータベースへの情報発信である。

NTTの施策としては他事業者に対して公正競争の確保を考えている。NTTは早期に安い料金でOCNの提供を企画しており、先進諸国に比べて内外価格差のないようにと考えている。日本におけるマルチメディアの発展、インターネット接続、LAN間接続等のコンピュータ通信のさらなる利用拡大を促し、個人、企業等のコンテンツ情報の流通活性化に寄与すべきとしている。

#### 第115回電気通信技術懇談会(8-12-6)

##### —— タイ国 TT&Tプロジェクトの概要 ——

92年6月に設立されたTT&T[Thai Telephone & Telecommunication Public Co., Ltd.]の概要についてスピーチがあった。

TT&Tの資本金は約722円、社員3300人、NTT18%

NTTの国際戦略の一環である。通信インフラ整備での試金石と位置づけられる。タイ国と日本は歴史的に友好関係にあり、NTTもタイの電話には色々と貢献しており、今回も好調に推移している。

92年～97年 建設

設備 交換機 エリクソン、アルカテル

伝送 アルカテル、住友〔NEC、古河〕

工事 タイCOMUSHS、タイ協和を含む7社

バンコック首都圏を除く全国に対し、100万回線増設を終了して追加50万回線も完了見込み

故障修理日数も一日が大部分。通話完了率 着信60% 発信40%

公衆電話もサービス認可された。

96年9月末にはバンコック〔周辺を含む〕と地方を合わせて電話普及率8%となり、98年12月末は11%が予想される。

### 第116回電気通信技術懇談会（9-3-11）

#### —— NTT北海道の自立策 ——

NTTの分離分割問題は3分割1持株会社案で基本的には収束したが、業務の再編、割り当て、収支、税制、労働、資産分割、研究開発、国際関連、海外事業、国際通信と今後の多事多難が予想される。特に地域別の収支のアンバランスは再編後の大問題であり、赤字対策は緊急事である。北海道支社の自立策が急がれる。

北海道の地域特性、其れに伴うNTT北海道の経営状況の説明があり、広い地域、過疎の人口と札幌への集中、豊かな資源、安価な労働力、アクセスネットのハイコストなどである。従ってマルチメディアサービスの全国展開を睨んで、NTT北海道の事業領域拡大のためソフト業務のうち現在中央で行われているものを北海道で安価に制作する、あるいは中央でのサービス業務を北海道で施行する等である。NTTの自社ネットワークと地域の安価な労働力の結合により、地域の活性化を図り併せて、良質なサービスの提供を企画する等を検討している。

#### —— 元理事平山博氏の受勲 ——

元理事平山博氏は昨年秋勲2等瑞宝章の叙勲を受けられた。同氏の永年の学術に対する功績が大きく評価されたものであり、ここに心よりお慶び申し上げる。

#### 受領資料

1. 日立 '97-1, '97-2, '97-3,
2. JTIFリポート No.1-175
3. はかる No.41
- 4.

- 9- (株)日立製作所
- 8-10 電気通信産業連盟
- 9- 1 (社)日本計量機器工業連合会

電磁応用 第46号

平成9年4月1日

編集発行人

川原田安夫

発行所

(財)電磁応用研究所

〒107 東京都港区南青山5-1-10-808

TEL. (03) 3499-1888

FAX. (03) 3499-1989